

# 《初めて行くならずは台北》PART 2

超メジャーですが、台湾にはじめて行くならず、まずは台北。

国立故宮博物館は1日かけても見切れないほどの見ごたえ。日本統治から、蒋介石による統制、現代の民主化に至るまでの歴史も随所に見られます。夜市は夜遅くまでにぎわい、鼎泰豊の小籠包も食べておきたいところ。他にも見どころはいっぱい。社員旅行などでは業種に合わせた見学場所など、ご希望に応じて手配しますので、お問い合わせください。

## 世界10大レストランの1つ「鼎泰豊」で「小籠包」を食べる訳



はじめて台北に行くならず、一度は食べておきたい鼎泰豊の「小籠包」。

小籠包自体は、上海が発祥と言われ、本場ではないとも言われます。確かにその通りではあるのですが、実際のところ、台湾には多くの中華料理が流れていて、独自に発展を遂げているのも確かでしょう。そんな中華料理のしかも1メニューに過ぎなかった「小籠包」を世界に知らしめたのが、この台湾の「鼎泰豊」なのです。鼎泰豊では、一部厨房をガラス張りにして、小籠包作りの様子も見えます。小籠包ほか、蝦仁焼賣(エビシューマイ)や、炒飯などもおすすめ。弊社の手配では、ご予算に合う限り、小籠包はもちろん、蝦仁焼賣などもお召し上がりいただけるようにしています。

この近辺では小籠包のお店は他にもあります。「鼎泰豊」の「小籠包」が有名になったことで、いい意味で競い合う様にもなりました。食べ比べてみるのも面白いかもしれませんね。

## 昔ながらの台北の商業街「迪化街」



てきがかいと読みます。迪化街は、19世紀中頃の清朝末期から栄えていた問屋街です。

海の玄関口である「淡水」から、淡水河を通過してやってくる多くの商船が、迪化街（当時、大稻埕）近くに荷揚げをしていました。

貿易商の商館や商店が並び、実に、この一帯が台北の貿易の中心地でもあったのです。台北は、淡水河そして北側を流れる支流の基隆河の水上運送によって発達したといっても過言ではありません。日本統治時代にも商業街として栄え、当時のバロック風の建築物も残っています。現在でも、布問屋から、漢方と乾物、お茶、高級食材、米、竹細工…迪化街ならではの商店が並んでいます。最近では、おしゃれなカフェや雑貨屋さんも出ています。

## 若者達でにぎわうストリート「西門街」とレトロな「西門紅楼」



週末になると歩行者天国となり、台湾の中高生たちが集まるのが西門町。映画館やデパートが集まり、流行の発信基地にもなっています。

この界隈で一際、目を引くのが、レンガ造りのレトロな「西門紅楼」。元々は、1908年に「西門市場(六角堂)」として建てられた建物です。西門町は映画の街としても発展していたため、1963年からは「紅楼映画館」として興業を行ないます。その後、老朽化、火災などに合いましたが、取り壊しは免れ、改修。



現在は、紅楼100年の歴史も物語ながら、カフェ、デザイン工房、ライブハウスとしても活躍しています。

韓国・台湾・東南アジア専門ランドオペレーター



ハンドメイドツアー

営業時間 月～金 9:30～18:30 (土日祝休業)

株式会社 HMC 東京都知事登録旅行業 第3-3609号

OTOA正会員 No.335

TEL.03-3831-4295 FAX.03-5812-7085

ホームページ <http://www.handmadetour.jp/>